

～10月10日“目の愛護デー”にちなんで発表～ 「私のアイアイメッセージコンテスト」受賞作品決定！

目の健康を考えた使い捨てコンタクトレンズを提供するジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニー(本社:東京都千代田区、代表取締役プレジデント:デイビッド・R・スミス)が特別協賛する、「がんばれ！クラブ・部活の仲間」に贈る『私のアイアイメッセージコンテスト』(毎日新聞社主催)の受賞作品が決定しましたので、10月10日(水)“目の愛護デー”の本日発表いたします。

「がんばれ！クラブ・部活の仲間」に贈る『私のアイアイメッセージコンテスト』は、“目の愛護デー”に向けて2012年6月25日(月)～2012年9月6日(木)まで、全国の小学生(5・6年生)と中学生を対象に、クラブ・部活動・委員会といった学校生活における課外活動がんばる仲間への応援メッセージを140文字以内で募集したコンテストです。コンテスト名には、仲間のがんばる姿を自分の“目(eye)”でしっかり見て、心で感じた“愛”をもって応援するという二つの意味が込められています。本コンテストは、人を思いやる気持ちや夢に向かって行動する姿勢・意欲を大事にすることを伝え、青少年の心身の健康の向上と“生きる力”を育み、あわせて目の健康や視覚の大切さを啓発することを目的としています。

全国から4,000作品を超える応募の中から厳正なる審査の結果、最優秀賞作品、各賞受賞作品の5作品に加え「奨励賞」10作品の合計15作品が選ばれました。入賞作品は、2012年10月10日(水)の“目の愛護デー”にジョンソン・エンド・ジョンソン(株) ビジョンケア カンパニーのWEBサイト等で発表します。

■「がんばれ！クラブ・部活の仲間」に贈る『私のアイアイメッセージコンテスト』概要



【テーマ】 クラブや部活動、委員会ではがんばる仲間への激励や思いやりのある応援メッセージ (140文字以内)

【応募対象】 全国の小学5・6年生、中学生

【部門】 ①中学生の部 ②小学生(5・6年)の部

【入賞発表】 2012年10月10日(水) “目の愛護デー”に、ジョンソン・エンド・ジョンソン「アキュビュー」ホームページ (<http://acuvue.jnj.co.jp/corp/press/p0109.htm>) 等で発表

【受賞者(敬称略)】

	受賞者名	学校/学年
最優秀賞	仲川 晴斐(なかがわ はるひ)	愛知県豊橋市立栄小学校6年
毎日新聞社賞	橋本 貴句(はしもと きく)	大阪信愛女学院中学校1年
日本眼科医会賞	升谷 昇(ますたに のぼる)	和歌山県串本町立潮岬中学校2年
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケアカンパニー賞	田村 咲瑛(たむら さえ)	神奈川県横浜市立白幡小学校6年
「アキュビュー」賞	佐伯 美佳(さえき みか)	千葉県我孫子市立白山中学校3年

※上記のほか、「奨励賞」10 作品、「学校賞」13 校が選ばれています。全受賞作品は、コンテスト特設サイト (<http://www.mainichi.co.jp/corporate/education/message.html>)にてご覧いただけます。

【審査委員】 宇津見 義一(公益社団法人日本眼科医会 常任理事/公益財団法人 日本学校保健会評議員)、田中 孝宏(東京都江東区立第二亀戸小学校校長)、木野村 雅子(東京都目黒区立第十中学校校長)、中村 秀明(毎日新聞社「教育と新聞」推進本部長)、城島 徹(毎日新聞社「教育と新聞」推進本部編集委員)、松本 真理(ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) ビジョンケア カンパニー)

【主催】 毎日新聞社

【後援】 公益社団法人 日本眼科医会、公益財団法人 日本学校保健会

【特別協賛】 ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニー

<ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニーについて>

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニーは、1991 年に世界初の使い捨てコンタクトレンズ「アキュビュー」を日本に導入して以来、常に使い捨てコンタクトレンズ市場をリードし続けてきました。現在、様々なユーザーのニーズにお応えするため、12 種類のタイプの異なる使い捨てコンタクトレンズをラインアップしています。

【参考資料】「がんばれ！クラブ・部活の仲間に贈る『私のアイイメッセージコンテスト』」受賞作品

■ 最優秀賞 【賞品:賞状+副賞(図書カード 30,000 円分)】

なかがわ はるひ
仲川 晴斐さん(愛知県豊橋市立栄小学校 6年)

【作品】 応援メッセージを贈る相手:ソフトボールの松山キッズの吉松 穂高へ



穂高、県大会出場おめでとう。君は骨折で練習できずに苦しんでいたにも関わらず、くさらずに練習に来ていたね。ただ見学するだけじゃなく自分のできることとして球ひろいを率先してやっていたね。ぼくはそんな君の汗を流しながら球ひろいをしている姿を見て心打たれたよ。がんばれ穂高、負けるな穂高。

【講評】

前向きな気持ちを持つ人の姿、その姿を感じ取っている児童がメッセージを書いている点が素晴らしい。隅の方から仲間を見つめる書き手の姿にも感動しました。穂高君は骨折したにもかかわらず、見学するだけではなく球ひろいをしています。誰かがやらなければならないことをやっているのです。みんなのアシストをしているわけですね。世の中もそうだと思うのです。裏方も大事。そこをしっかりとやりましょうねということが伝わってきました。共感しました。

また、縁の下の力持ちのように頑張っていた子がいたこと、実際の県大会予選では違う友達が活躍してチームを引っ張っていたことが伝わり、メッセージの広さも感じられました。県大会に出たということも良かったです。構成的にもきちっとしています。最後に「がんばれ穂高、負けるな穂高」で締めくくられていて、応援メッセージになっています。文句なく良い。

■ 毎日新聞社賞 【賞品:賞状+副賞(図書カード 20,000 円分)】

はしもと きく
橋本 貴句さん(大阪信愛女学院中学校 1年)

【作品】 応援メッセージを贈る相手:1年B組の藤井さんへ

藤井さんは、いつもポケ担当で、皆から「ポケの神様」と呼ばれるほど、ポケるのがうまいです。そんな藤井さんは、いつも「皆を笑わせなければ」というプレッシャーを負っているような気がします。いつも、皆を笑わせてくれて、ありがとう。私も、全力でツッコむので、これからもがんばってください。



【講評】

関西ならではのユーモアで表現された友情から、ほのぼのとした学園生活の様子が伝わってきます。

■ 日本眼科医会賞 【賞品:賞状+副賞(図書カード 20,000 円分)】

ますたに のぼる
升谷 昇さん(和歌山県串本町立潮岬中学校 2年)

【作品】 応援メッセージを贈る相手:サッカー一部 2年の平原 悠成へ

君はいつも試合で、センターバックとして後ろから「ドンマイ！ドンマイ！」と言ってみんなを盛り上げてくれます。練習の時も常に明るく声を出して、ミスしても人をせめません。だからこそ、センターバックを任せられるのです。来年も、今まで通り声を出して、明るくみんなを盛り上げていってください。



【講評】

黒潮の息吹ときらめく太陽のダイナミックな風土がおおらかでたくましい友情を育んだのでしょ。

■ ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) ビジョンケア カンパニー賞【賞品:賞状+副賞(図書カード 20,000 円分)】

田村 咲瑛さん(神奈川県横浜市立白幡小学校 6年)

【作品】 応援メッセージを贈る相手: 文芸クラブの海野 碧生さんへ

文芸クラブをつくろう、と言い出した碧生は一生けん命だったけれど、私はただの好奇心だった。でも、碧生の姿を見て、二人で本気になって、文芸クラブができたときは飛び上がって喜んだ。碧生の夢は、芥川賞を取ることなんだね。私も部長として、親友として、碧生が活躍するために精一杯がんばります。



【講評】

率直な喜びの表現に好感が持たれ、友だちの志を我がことのように感じる想像力がすばらしい。

■ 「アキュビュー」賞【賞品:賞状+副賞(図書カード 20,000 円分)】

佐伯 美佳さん(千葉県我孫子市立白山中学校 3年)

【作品】 応援メッセージを贈る相手: 部活の友達へ

私が部活の事で悩んで、泣いちゃった時、一緒に泣いてくれた事。すごく嬉しかった。ありがとう。キミに、救われたんだ。私は。だから、もし、キミが悩んだ時は隣に居てもいいかな。救える自信はないけれど。これから先、色んな事があるけれど、頑張っていこうね。私はいつでも、キミの味方だから。



【講評】

青春という苦悩と喜びの季節をともに過ごす部活仲間への信頼。そして愛情を本音で伝えています。